

## Q20 興味の偏りやこだわりのある子どもには、どう対応したらよいでしょうか

### 子どもの状態

特定の玩具やテレビ番組，本，食べ物，色，形，話題等へのこだわりが強い。

順序，予定，道順，物の位置などにこだわる。

自分の好きなことやしたいことが限られていて，同じ遊びを延々と続ける。

こだわっていること以外には興味を示さず，極端に嫌がり，やろうとしない。

こだわっていることが思いどおりにならないと，泣き叫んだり，物を投げたりする。

### 状態の理解のポイント

- ・ こだわらざるを得ない心理的特性（同一性保持行動）がある。
- ・ 興味の対象が限られていて，自分の好きなことだけ取り組む。
- ・ 同じ順序や状態でないと不安になる。
- ・ 心理的なよりどころとして，特定の物を保持している。
- ・ ストレスから逃避し，情緒を安定させるために，いつも同じことをする。

### 考えられる対応

迷惑にならないこだわりは認めるが，場所や時間を決めて，してよいときと，してはいけないときを区別するようにする。

こだわりのあるものを利用しながら，他のものへ興味を誘導し，興味の対象の拡大を図る。（図130）

課題の後に，こだわっていること・好きなことをするように促す。

例） かけっこの練習（課題）

パソコンを使った学習（好きなこと・こだわっていること）

心理的なよりどころとして特定のものを保持しているときは，無理に取り上げず，それを支えにしてできることを評価するようにする。

特定の物にこだわるときは，その対象物をだんだんと小さくしたり，手の届くところから少しずつ遠ざけたりする。（図131）

家庭でも，こだわっていること・興味のあることを糸口にして，趣味として余暇活動に発展させられないかを考えてもらうようにする。



図130 興味の対象の拡大

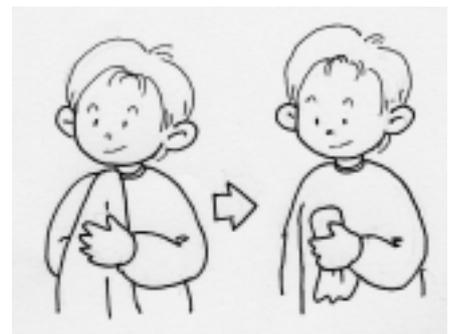


図131 こだわりの段階的消去